

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 19 年 8 月 7 日
事業所名	グループホーム コムスのほほえみ高畑
事業所番号	2371001203
記入者名	職名 エントリーダ - 氏名 佐藤 智恵子
連絡先電話番号	052-369-2681

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の理念「一人でも多くの高齢者の自立と尊厳を守る」があるが、ここ「ほほえみ高畑」独自の理念というのではない。	○	スタッフみんなで理念を作っていけたらいいと思う。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に何度も話し合いをもち、会議を開き確認しあっている。	○	単にきれいごとの言葉だけではいけないので本当に実際に生かせるように努力。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	二ヶ月に一度運営推進会議を開いている。	○	地域の人に認知症についての理解をえるため会議でちょっとした勉強会ができたと思う。
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の時、近所のお宮へおまいりに行くときなど挨拶程度の声掛けは行っている。	○	立ち寄ってもらえるようになるには、こちら側から何かきっかけをつくっていかなければならない。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事などには全然参加できていない。会議には自治会、老人会の会長様方にも出席して頂いているので、これからはぜひ参加できるようにしていきたい。	○	まずは日常的な当番のようなものから参加していきこの地域の一員と認めてもらうことから始めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に役立つような取り組みはない。現状では利用者のことで精一杯ということもある。	○	認知症や介護のことで地域の高齢者に役立てる事ができたら。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価はの意義はわかる。グループホームは規模が小さいので閉鎖的な考え方になってはいけない。なるべく活かしていきたいのだが、そのとき限りということになりがちである。	○	外部評価のその日が済むとまた一年後ということになるので、次の日からの取り組みが肝心だと心がける。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動の報告をし、家族からの要望を聞いている。	○	今回の外部評価と市の実地指導があったので、その報告をする。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所の担当者とはまれにしか行き来がない。会議にも出席していない。	○	これまで特に相談したりする必要がないと考えてきたが、日常的なことでも知ってもらえるよう機会を作りたい。まずはコムスの会社の問題を報告にいかなければならない。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	とくになにもしていない。必要になる人があるかもしれないので勉強していかなければと思う。	○	機会をみつけて学習していきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームのなかでも言葉使いなど問題になることがある。話し合って注意している。	○	管理者だけでなく職員みんなが講習などに積極的に参加できるようにしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約は納得していただくまで説明をしている。しかしこちらの不手際で書類の記入もれなどがあったことも。</p>	<p>○</p> <p>この先このホームも経営者が変わることになる予定。間違いのない契約をしていかねばならない。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は利用者の意見をいつも聞くよう心がけているが、外部へ表す機会というのは、家族いがいにはとくはない。電話をかけたいという利用者には問題のない範囲でかけてもらっている。</p>	<p>○</p> <p>今はとくに外部へ表明する機会を設けてはいないが、阻止しているわけでもない。どういう形がいいか考えていく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>いろいろ細かい報告もその都度できるだけ行っている。</p>	<p>○</p> <p>日々の報告に加えて、月一回定期的な家族への通信を送る事が出来たらと思う。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議のときやホームを訪問されたときなどに意見を聞いている。また会社に電話で苦情を言うことも出来る。</p>	<p>○</p> <p>利用者本人が意見をはっきりいえない人が多いので、家族の意見は大変重要。出来る限り反映させていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回会議のときに話し合う。また日常的にも意見を言えるように管理者は心がけている。しかし職員の意見を聞くという姿勢が経営者には欠けていたと言わざるをえない。</p>	<p>○</p> <p>コムスンから引き継ぐ次の運営者の方、お願いします。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>現場で勤務の調整や話し合いは精一杯おこなっている。それでも十分とは言えないのは、ただでさえ人手不足なのに会社が問題をおこして職員の応募も出来ない状況になったからである。</p>	<p>○</p> <p>ホーム内でできる範囲についてはそれぞれ職員ができるだけの事はしている。しかしそれにも限界があるので、経営者もこういう問題を考えてもらわなければならない。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	そういう問題の担当者にはがんばって助けてもらっている。しかしそれ以上に利益を追求する経営者の根本の姿勢が問題であった。	○	せめて最後にコムスは会社譲渡に際してこの観点から出来るだけの努力をすべきである。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	確かに会社は研修の機会をつくってくれたいた。それでもシフトがいっぱいだとなかなか参加できない現場の事情がある。	○	できるだけ全てのスタッフが研修など受けて向上していけたらいい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護業者、グループホームの連絡協議会などに参加する機会を与えられている。	○	いろいろな勉強会などの機会があるので出来るだけ積極的に参加していきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間では話し合い、いろいろ考えてやってはいるが、運営者には逆にストレスをかけられている。	○	コムスから引き継ぐ次の運営者の方、お願いします。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	コムスの問題点は、勤務の実績というときにまず営業・利益の観点から考えるところではなかったか。	○	コムスから引き継ぐ次の運営者の方、お願いします。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>管理者やケアマネが当人に会いにいき話を聞くようにしている。本人がホームにきて話をよく聞くことはあまりなかった。</p>	<p>○</p> <p>実際に本人が利用する前にホームにきてもらえたら、職員もよりよくわかると思う。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>特に計画作成担当者は初めの計画を作る必要もあり、家族からしっかり話を聞いている。</p>	<p>○</p> <p>計画作成担当者や管理者だけでなく実際に介護に当たる職員も話を聞く機会があったらいい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>上と同じだが、初期の介護計画はよく話をきいてつくるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>話を聞くだけでなく現状を目で見て対応してみないとどういう介護が必要なのかわからない所がある。例えば一度実際にトイレ介助を試してみればどういう介護が必要なのかわかりやすい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>その日からいきなり入居というケースが多かった。職員も初対面で戸惑う事があるので、できたら入居がきまる前にホームにきて過ごしてもらえよう機会を設けたい。</p>	<p>○</p> <p>(上の項目の続きも兼ねて)人によるだろうが、もしできるなら試しに入居・利用の開始前にホームに泊まってみるようなことができれば色々な面で理解が出来るし、本人も戸惑う事がないかもしれない。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ある利用者とする職員ではできていても、すべての利用者、職員間ではなかなかむづかしいところもある。それができたら理想的である。</p>	<p>○</p> <p>特定の人だけでなくすべての人にそうなれるよう努力。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	熱心な家族の気持ちは職員にも伝わる。熱心でない冷たいと職員を感じる家族に関しては、あまり合う機会がないから気持ちが伝わらないといった問題があるかもしれない。	○	家族と職員がより密接になれるよう考えていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	上と同じで、訪問の少ない家族に関しては難しい所がある。	○	実際に家族と本人と職員と一緒に話をしたりする機会を大事にして理解を深めたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の人、ホームのすぐ近くに家がある人や自分の方から便りを出せる人については支援できている。あるひとたちはすでに関係がとぎれてしまっている。	○	認知症が進行すれば関係維持も困難になるかもしれない。そういう意味でもいまある付き合いはたいせつなので維持できるよう支援できたら。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲のいい利用者どうしはうまくいくよう配慮しながらやっている。むつかしいのは誰とも親しくなれないような人。	○	利用者どうし親しくなれない人には職員がより親密になっていかなければ本当に孤立してしまうので注意したい。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いままでは、継続的な関係を求められることはなかったと思うが、あるいはこちらの配慮が足りなかったかもしれない。	○	利用者、家族がそれを求めているかどうか注意して気をくばり判断して、必要な場合には関係を大事にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>できるかぎりは努めている。しかし本人本位が難しい場合もある。</p>	<p>○</p> <p>生活のパターンが大体決まってくると、それから外れることは出来にくくなることが多い。本人本位の暮らしという大事な事を忘れがちになるので気をつけたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に一通り聞いているが、その時だけではごく一部しか把握できない。さらに日常の会話のなかから教えてもらうようにしている。</p>	<p>○</p> <p>逆に会話の少ない人はわからないということになってはいけないので、家族などから色々教えてもらわなければならない。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>健康状態など一日一日変わったりするので出来るだけ把握するようにしている。</p>	<p>○</p> <p>一人の職員が気が付いた事をみんなに知らせて、介護や提携医への相談などにも活かしていく。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員間では会議で計画を検討している。家族にも見てもらい同意を得ている。本人の希望は日常的な介護をとおして把握するようにしている。</p>	<p>○</p> <p>家族には計画が出来てからそれを見てもらう形だが、一緒に考えるという形もできたらいいかもしれない。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化があった場合はできるだけすぐに見直しをして、家族に報告し計画を見てもらっている。</p>	<p>○</p> <p>日頃から家族との関係を大事にしている事が、計画の見直しなどのときにもスムーズにいくと思う。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本的なこととして実行している。	○	記録をつけること自体なかなか大変だが、よく注意してしっかり記録をつけていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性を特に意識した事は無かった。これからどんなことが出来るか考えていきたい。	○	正直日々のホームでの暮らしを安全に楽しく、ということでかなり目一杯なのでそれ以上に高度な多機能性ということを考える事がなかった。今後の課題ということで。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアなどは時々きてもらっている。本人の意向に応じてとなると、なかなか相手の都合もありそう簡単にはいかない。	○	本人の必要性とかいう以前に、協働の機会があまりに少ないのもっと強化していきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のほかのサービスは利用していない。	○	どういうものが利用可能かまず調べなければならない。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	これは全然していない。	○	どういう場合に必要なのかということから始めて検討していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所の親切的な提携医にお世話になっている。	○	提携医は家族からも信頼されている。これからもより一層の信頼関係を築いていきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	そうした専門医とはとくに関係ができてはいない。	○	認知症の専門医と関係ができて職員が相談できるようになれば非常にたすかる。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携病院の看護師に協力してもらっている。週一回訪問して頂いて相談などしてもらっている。	○	近所なのでかなり身近に協力してもらっている。これからも良い関係でお願いしたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院とは基本的に家族が連絡をとっていて、必要に応じてホームと情報交換をしている。それだから家族との話し合いを大事にしている。	○	病院との連携と言う視点があまりなかったので、課題として検討していきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	はっきり重度化した段階で家族や医師と話し合っ方針を決めたことはあった。	○	なるべく早い段階から方針を共有するために検討、準備をしていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	できること、できないことは大体のところは共通認識があるが、ホームとして明文化された方針というものは無い。	○	医師や家族と相談してみんなが納得できるような方針をたてる、そのための準備をしていかなければならない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>今後そうした場合にはケア関係者とも十分に時間をとって話し合いをしていきたい。できたら本人と会ってもらって情報交換するのが一番いいと思う。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>すべての職員が自覚して徹底できるよう努力していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	<p>本人の希望が簡単に実現できるならいいが、現実には出来ないこともある。逆に本人はとくに望んでいなくても職員の方から勧めてやってもらった方がいい場合(例えば運動不足の人に運動をしよう)もあるので、はっきり言って複雑で難しい課題。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	<p>職員の出来る仕事にも限界があるので、余裕が無いときはどうしてもできないことがある。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	<p>たまには特別に着飾って楽しむ日を設けてみたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・片付けは一緒にできるように考えて行っている。今は料理は一緒にやってもらっていない。	○	特定のひとだけが行っているのもっと多くの人ができるようになりたい。また料理も一緒に出来る工夫をしたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	あまいものが好きな人が多い。糖尿など病気との兼ね合いで工夫しながら支援している。	○	おやつはワン・パターンになりがちなので、いろいろな嗜好に合うように工夫したい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できるだけ支援はしている。立つ力がなくなってトイレ介助が出来なくなりオムツを使うようになった人もいる。	○	筋力の低下や認知症の進行など全体的なことが排泄の状態に直接関係するので、自立支援の介護ということを毎日しっかりやっていかなければならない。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望はなるだけ聞いている。時間帯はある程度決まってしまうが、理解を得ていると思う。	○	ほんとうに入りたいときに入れたら一番いいのだが。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝など一人ひとり希望や体調にあわせてできるようにしている。それで昼夜逆転などもないのでうまくいっていると思う。	○	今は一人ひとりわりと自由に休めるし、それで生活の乱れも無いので順調だと思う。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	小さな事でもできることを見つけて役割をもってもらうようにしている。仕事や遊びなどやる気があまりなくて、ぼうっとしていることが多い人はなかなか難しいが、できるだけ支援はしている。	○	レクリエーションの充実をもっとしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部お金を持っている人はいるが、使う機会は今はあまり無い。	○	お買い物など同行して支援していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの近くの散歩にはよく出かける。スタッフが付き添う都合をうまくつけて出来るだけ支援をしている。	○	神社に行くことが多い。上とも関係するがスーパーにいっしょに行けたらいいと思う。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別に家族と一緒に出掛けることはある。スタッフがついて遠い所へ行く事はない。	○	普段いけない場所へは全く支援できていないので、何か機会をつくってできるようにしたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は本人が望めばできる。しかしそれができない人が多いのが現状である。	○	文字を忘れていることも多く日常的に文字を書く支援も必要。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	工夫できている。ほんとに気軽によく訪問してもらえる家族もある。	○	あまり訪問してくれない人もいるので家族などにはよびかけるといいかもしれないが、それぞれ家庭の事情があるのでよく考えないといけない。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来ている。ベッドから落ちないように4点柵を使用している人がいるが家族の同意を頂いたうえで、やむをえないということでやっている。それでもできるだけやらなくて済むような方向で考えていきたい。	○	さらに知識を深めるための研修など参加していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昔はリビングから玄関に出る扉に鍵をかけていたが、かけないことを目標にして、今ではかけないのが当たり前になった。	○	ベランダにでる窓の扉は、段差があって危ないので開けっ放しにはしていない。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	とくに注意をしないといけない人は、職員みんながわかっており、しっかり把握している。	○	なかには一人で外へ出て行こうとされる方もあり、いつも配慮は欠かせない。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	もともと注意のいるものはあまり無かったので、特に問題なくできている。	○	居室の中など物にけつまずいたりしないよう配慮している。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒しやすい人、外部徘徊の心配な人などそれぞれ配慮して取り組んでいる。	○	もっともっと勉強する事はあるので頑張っていきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の訓練はやっていない。個別の事例で看護師や医師に教えてもらう事はある。	○	定期的に行うようにしたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に協力してもらい避難訓練をしている。	○	地域の人の協力を得るような働きかけはしていないので行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	健康や生活の事などできるだけ家族と連絡をとるようにしている。	○	いろいろ話し合う中で家族の理解・信頼をえられるようにしていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化には職員みな特に注意しており、すぐに報告するよう努めている。	○	提携医がいつでも電話で対応してくれるので助かっている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	みんな努力はしている。しかし薬の種類が多く、同じ目的でも人によって違っていたり全部を理解するのはなかなか大変。	○	時間があったら勉強会でもしたいのだが。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取組んでいる	便秘になると不穏、不調になる人がいるので、職員も特に気を使って取組んでいる。	○	運動のなかなか出来ない人、便秘が以前からずっと習慣になっている人はむづかしいところがある。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きはしっかり習慣になっている。	○	誤嚥性肺炎という心配もあるので、より一層注意してやっていきたい。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減には注意しており、水分量もしっかりチェックしている。また糖尿病の人も定期的な血液検査と医師の指示に従って栄養を考えている。	○	病気と栄養の関係などいろいろ知っておいたことがいいことも多いので、機会をつくって学んでいきたいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	この点は会社がしっかり専門的知識に基いた対応策を考えてくれておりありがたい。そのマニュアルを実行している。	○	「そういう決まりがあるから、しょうがないからやっつくか」という感じになりやすいので気をつけたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	上と同様、会社がしっかりとした指示をしてくれるのでそれにのっとってしっかり衛生管理をするよう努めている。	○	古いものは必ず捨てるという事を徹底している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	特に工夫というほどでもないが、綺麗に整った感じになるよう心掛けている。	○	もっと親しみがもてるよう工夫していけたら。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾るなど職員それぞれ気が付いた所を工夫している。	○	不快な光というと夜間の赤い警報ランプだが、今の所みんな慣れて特に問題はない。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲のいいひとが自然にそばに座れるようになった。食事の席なども考えてやっている。	○	居場所作りの問題とは違うが、仲の悪い人も一緒に過ごすのだから、そこをうまくやっていくことが一番難しい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	家族と相談して工夫している。ある人は使い慣 れたものを置き、あるひとは安全を第一に考 えて配置している。	○	自分の家のような感じに少しでも近づけてい けたら。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気や室温には配慮している。今年の夏のよ うな猛暑でも体調を崩さないよう気を使っ ている。	○	ひとによってはすごく寒がったりそれぞ れ違いがあるので、そういうところもし っかり把握してやっていく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	安全第一で配慮している。トイレなどわか りやすく間違わないよう工夫している。	○	浴槽は滑らないようにマットをひいたり 工夫をしている。あまりお金もかけられ ないので、出来る範囲でこれからも考 えていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	出来る範囲ではやっている。もともとの 造りが混乱しやすいものもある。	○	水道の蛇口などは昔とやり方が違 うので特に初めは混乱する人が多い。 お金をかけて工事をすることはな かなかできない。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が 楽しんだり、活動できるように活 かしている	それほど活用してはいないが、草 抜きしたりきれいにしていく	○	以前は小さい庭で野菜を作った 事もあった。いろいろ工夫して いきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

みんな仲良く明るく元気にやっていくことをモットーにしています。